2025年 9月 19日

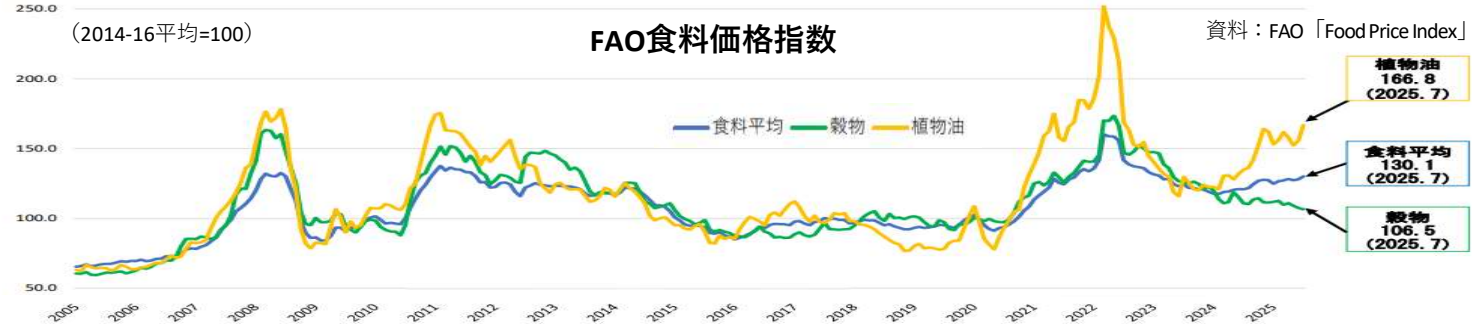
協伸商会穀物レポート［KKR］Vol. 086
（2025/26年度　USDA米国農務省 9月12日発表）

❶ 異常気象頻発の中で世界穀物/大豆生産量は３年連続の史上最高を記録

近年、世界中において異常気象による低温/霜害/旱魃/洪水等の被害が報道されているが別添「世界の穀物・大豆の需給」に見るように穀物/大豆生産は23/24年度以降ここ３年連続で史上最高数量を記録している。具体的には今年度穀物生産量は29.3億㌧と一昨年より約１億㌧増、また大豆は4.3億㌧と同じく一昨年より何と0.3億㌧増と順調である。この要因は何なのか…？ ① 地域のばらつきはあるが、米国中西部/カナダ/ヨーロッパ/南米などの主産地等の天候条件が良好。また例年エルニーニョ現象により旱魃に見舞われる豪州/アルゼンチンの生産が順調。② 産地別にはブラジルにおける産地拡大による大豆/とうもろこしの生産増が顕著（とうもろこし119⇒131、大豆155⇒175百万㌧）。また③ 小麦主産地であるロシアにおいては温暖化/機械化進展等により小麦生産が2015年前後の６千万㌧レベルから8-9千万㌧レベルまで飛躍的に拡大などがあげられる。

❷ FAO食料価格指数は穀物安の製品高の流れが顕著！ 過去類例を見ない又裂き状況

下記グラフは2005年～25年までのFAO の食料価格指数の変動であるが、これは今までにない動きを見せている。現在の穀物価格指数は、ほぼ22年のロシアのウクライナ侵攻以前のレベルまで戻って106.5。各穀物の価格動向は下記の通り。これに対し食料平均指数は130.1、植物油は更に跳ね上がって166.8と大きく乖離している。この要因は① 加工までの物流費や労働力不足による人件費高騰、また ② 大豆油のバイオデイゼル化の拡大と最大の植物油原料であるパームオイルの需給逼迫による価格高騰、 ③ 世界的インフレトレンドの浸透などが考えられる。



１，世界穀物需要の概要（大豆を除く）

① 生産量：　2,930百万㌧（ 前年比2.7%　増↑、前月比0.3%　増↑ ）
② 消費量：　2,933百万㌧（ 前年比1.7%　増↑、前月比0.3%　増↑ ）
③ 貿易量：　522百万㌧（ 前年比3.4%　増↑、前月比0.6%　増↑ ）

２．小　麦

① 生産量：　816百万㌧（ 前年比1.9%　増↑、前月比1.2%　増↑ ）
② 消費量：　815百万㌧（ 前年比0.7%　増↑、前月比0.6%　増↑ ）
③ 輸出量：　215百万㌧（ 前年比2.5%　増↑、前月比0.6%　増↑ ）
④ 在庫量：　264百万㌧（ 前年比0.6%　増↑、前月比1.5%　増↑ ）　/（在庫率 32%）うち中国125百万㌧、占有率47%
⑤ 価　格：　$5.01/Bu　（前年$5.53/Bu　/　前月$5.17/Bu）　と前月比$0.16　下落。
⑥ 概　況：　収穫期を迎えた小麦生産量は、主産地である欧州/ロシア/それに豪州/カナダも含めて総じて良好な気象条件を受け前月から約１千万㌧増、前年からも15百万ト増と史上最高を記録する見通し。また消費量も同様に前年より増加する見通し。輸出量は２億㌧を大きく超え前年比2.5%増となっている。価格は冬小麦の増産を於け一時＄5を割ったがドル安・輸出増期待で＄5台を回復。

３．とうもろこし

① 生産量：　1,287百万㌧（ 前年比4.7%　増↑、前月比0.2%　減↓ ）
② 消費量：　1,289百万㌧（ 前年比2.3%　増↑、前月比0.0%　→ ）
③ 輸出量：　202百万㌧（ 前年比4.1%　増↑、前月比0.4%　増↑ ）
④ 在庫量：　281百万㌧（ 前年比1.0%　減↓、前月比0.4%　減↓ ）　/（在庫率 22%）うち中国177百万㌧、占有率63%
⑤ 価　格：　$3.99/Bu　（前年$3.84/Bu　/　前月$3.90/Bu）　と前月比$0.09　上昇。
⑥ 概　況：　とうもろこし生産量は、最大産地である米国が前年比５千万㌧増の4.3億㌧という大増産見通しを受け全体でも12.9億㌧と史上最高見通し。消費量も同様に拡大している。輸出量は米国が76百万㌧またブラジル43/アルゼンチン37百万㌧と好調で全体でも２億㌧を上回る見通し。期末在庫量は前年比3百万㌧減少。価格はとうもろこしの大増産を受け＄4を挟んだ展開が続いている。

４．大　豆

① 生産量：　426百万㌧（ 前年比0.4%　増↑、前月比0.1%　減↓ ）
② 消費量：　424百万㌧（ 前年比3.3%　増↑、前月比0.3%　減↓ ）
③ 輸出量：　188百万㌧（ 前年比2.3%　増↑、前月比0.2%　増↑ ）
④ 在庫量：　124百万㌧（ 前年比0.3%　増↑、前月比0.7%　減↓ ）　/（在庫率 29%）うちBRA37/ARG24百万㌧
⑤ 価　格：　$10.07/Bu　（前年$9.89/Bu　/　前月$9.62/Bu）　と前月比$0.45　上昇。
⑥ 概　況：　大豆生産量は、前月比インド/EUなどで減産見通しの為約１百万㌧減少したが、前年比ではブラジル/米国の生産が順調であり426百万㌧と史上最高を更新する見通しである。消費量はようやく生産量拡大にほぼ追いついてきた。輸出量は前年比約５百万㌧増の188百万㌧と２億㌧の大台が見えてきた。今後最大の焦点は米中関税問題で中国の米国産大豆輸入が再開されるかどうか…。

以上

世界の穀物・大豆等の需給

2025年9月12日
米国農務省発表：　単位１００万トン

主要穀物世界の需給							
			生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2023/24		2,824	3,617	515	2,820	797
	2024/25		2,852	3,650	504	2,885	764
	2025/26	8月	2,920	3,682	518	2,926	756
	2025/26	９月	2,930	3,694	522	2,933	761
小麦	2023/24		792	1,067	222	796	271
	2024/25		801	1,072	210	809	262
	2025/26	8月	807	1,070	214	810	260
	2025/26	９月	816	1,079	215	815	264
粗粒穀物（とうもろこし等）　注１	2023/24		1,508	1,846	236	1,498	347
	2024/25		1,510	1,858	234	1,544	313
	2025/26	8月	1,572	1,884	243	1,574	310
	2025/26	９月	1,573	1,886	245	1,576	310
米	2023/24		524	704	57	525	179
	2024/25		541	720	61	532	188
	2025/26	8月	541	729	62	542	187
	2025/26	９月	541	729	62	542	187
大豆	2023/24		396	498	178	383	115
	2024/25		424	539	183	416	124
	2025/26	8月	426	552	187	425	125
	2025/26	９月	426	549	188	424	124

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	283.11	1,288.58	192.16	1,289.15	200.86	282.54
	９月	284.18	1,286.58	193.20	1,289.36	201.71	281.40
アメリカ	8月	33.15	425.26	0.64	332.25	73.03	53.77
	９月	33.66	427.11	0.64	332.25	75.57	53.58
アルゼンチン	8月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
	９月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
ブラジル	8月	7.99	131.00	1.60	94.00	43.00	3.59
	９月	8.83	131.00	1.60	95.00	43.00	3.43
EU	8月	6.23	58.00	22.00	77.90	2.50	5.83
	９月	6.28	55.30	23.00	76.90	1.80	5.88
日本	8月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
	９月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
中国	8月	194.18	295.00	10.00	321.00	0.02	178.16
	９月	193.09	295.00	10.00	321.00	0.02	177.07
ロシア	8月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
	９月	0.91	14.10	0.05	11.10	3.00	0.96
ウクライナ	8月	0.76	32.00	0.01	6.33	25.50	0.95
	９月	1.06	32.00	0.01	6.43	25.50	1.15

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	125.19	426.39	185.86	425.10	187.44	124.90
	９月	123.58	425.87	186.21	423.89	187.78	123.99
アメリカ	8月	8.99	116.82	0.54	72.05	46.40	7.89
	９月	8.98	117.05	0.54	72.54	45.86	8.17
アルゼンチン	8月	25.25	48.50	7.20	50.50	5.80	24.65
	９月	24.05	48.50	7.20	49.90	6.00	23.85
ブラジル	8月	36.11	175.00	0.15	62.30	112.00	36.96
	９月	36.21	175.00	0.35	62.30	112.00	37.26
中国	8月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
	９月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
EU	8月	1.88	2.93	14.20	16.82	0.30	1.89
	９月	1.88	2.77	14.30	16.82	0.30	1.83

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	8月	262.70	806.90	209.46	809.53	213.53	260.08
	９月	262.42	816.20	210.56	814.56	214.72	264.06
アメリカ	8月	23.15	52.45	3.27	31.41	23.81	23.64
	９月	23.15	52.45	3.27	31.41	24.49	22.96
アルゼンチン	8月	4.94	19.70	0.01	7.30	13.00	4.35
	９月	4.94	19.50	0.01	7.30	13.00	4.15
オーストラリア	8月	4.25	31.00	0.23	8.10	23.00	4.38
	９月	4.25	34.50	0.23	8.70	25.00	5.28
カナダ	8月	3.64	35.00	0.60	8.75	27.00	3.49
	９月	4.11	36.00	0.60	9.35	27.00	4.36
EU	8月	12.36	138.25	6.50	112.00	32.50	12.61
	９月	11.69	140.10	5.50	113.00	32.50	11.79
中国	8月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
	９月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
インド	8月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
	９月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
ロシア	8月	10.59	83.50	0.30	39.00	46.00	9.39
	９月	10.59	85.00	0.30	39.70	45.00	11.19
ウクライナ	8月	0.93	22.00	0.10	6.60	15.50	0.93
	９月	0.93	23.00	0.10	7.10	15.00	1.93

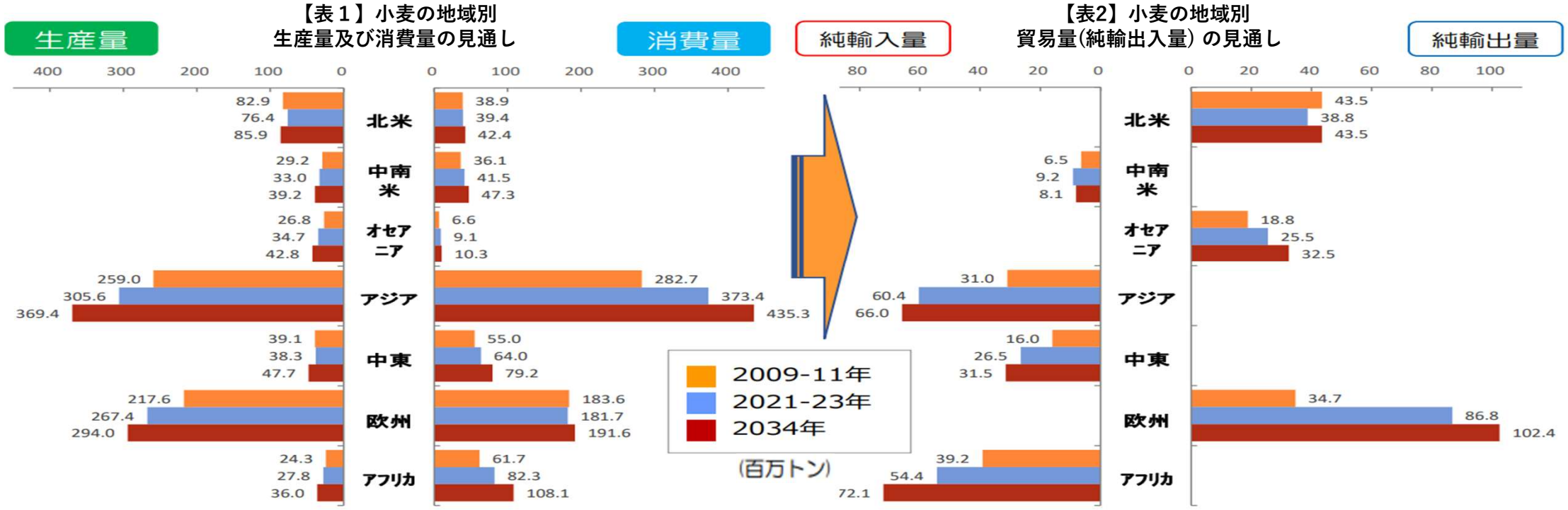
脚注１：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約８０％がとうもろこしである。
脚注２：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：９月～8月。

世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向（9）

❶ 世界の小麦生産量は小麦の世界普及と畜産物需要拡大を背景に今後とも増加の見通し… 先月号のとうもろこしに続き、今月は世界生産量が23年8億ﾄﾝ⇒34年9億ﾄﾝを超え世界共通食糧となり、飼料穀物としても用途が広がる小麦について取り上げたい。[表1]はその小麦の2034年における地域別生産/消費量を予測したものだが、世界の生産量はアジアが約4割/欧州が3割を超え、消費量はアジアが約5割/欧州が2割程度を占めこの2地域が世界の小麦生産/消費の軸となっている。小麦消費は人口増を背景に主に食用で増加するが、飼料用は小麦総消費量の2割を占め1.8億ﾄﾝと配合飼料原料の約13%を占める見通し。地域的には人口増と食肉消費の伸びる可能性の高いアジア/中東/アフリカの3地域の伸びが顕著。この10年でアジアは約62百万ﾄﾝ増/アフリカ25百万ﾄﾝ増/中東15百万ﾄﾝ増とこの3地域で約1億ﾄﾝ増加し全体増加（1.2億ﾄﾝ）の約9割を占める見通し。アジア/中東は主に人口増＋洋食化と肉食の拡大、アフリカは急激な人口増がその背景となっている。

❷ 小麦消費量の拡大を牽引するのは人口が増大するアジア/アフリカの2地域… 主食の小麦も含め穀物生産/消費の伸びは人口動態と密接な関係がある。世界人口は2023年の80億人⇒34年約88億人と約8億人増加する見通しである。この50年の世界の人口増加率は1970年前後の2.04%をピークに現在は0.85%まで下降、2035年には更に0.63%まで低下する見通しである。この10年間の世界人口はアジアで＋2.4億人、アフリカ＋4.8億人とこの2地域で約9割を占める。また、世界の人口一人当たり穀物消費量（大豆除くとうもろこし/小麦/コメ）は2023年350kg（28億ﾄﾝ/80億人）⇒34年368kg（32億ﾄﾝ/87億人）と18kg/約5%増。これを人口規模の大きいアジアと人口拡大急のアフリカの2地域で見た場合は、アジア265 kg(12.6億ﾄﾝ/47.8億人)⇒285kg(14.3億ﾄﾝ/50.2億人）と20kg増、 アフリカ155kg（2.3億ﾄﾝ/14.8億人）⇒158kg（3.1億ﾄﾝ/19.6 億人）kgとほぼ変わらない。アジアはまだまだインド/東南アジア等低開発国が多く世界レベルには遠く拡大余地はあるが、アフリカは人口増加率が2%を超え約20億人の人口を抱え一人当たり消費量は停滞したままで主食を優先せざるを得ない状態が続くという特徴が浮き出てくる。

❸ 小麦の貿易の輸出地域は欧州/北米/オセアニア、輸入はアフリカ/アジア/中東に集中… [表2]は小麦の地域別貿易量見通しを表しているが、表にある様に輸入量の最大地域はアフリカ72百万ﾄﾝで世界貿易量（輸入量）の40%/前期比18百万ﾄﾝ増/そして消費量の68%は輸入に頼る構図が特徴的。要するにアフリカは人口20億人近くまで増加する中、厳しい土壌気候条件/脆弱なインフラ等から生産拡大がままならず食糧自給は叶わず、小麦消費量の約7割まで輸入せざるを得ないと言う特異な世界となっている。その輸出元になっているのが主に欧州（ロシア/フランス/ウクライナ）。またアジアは消費の拡大に伴い輸入量も拡大し66百万ﾄﾝとアフリカに次ぐ。彼らの輸入元は地政学的にも主に北米と一部オセアニア（豪州）という構図となっている。（続く）



資料：2034年における世界の食料需給見通し